

赤石沢



リーダーの御言葉

とまかく参たんたる山行であった。沢自体は、予想した程ではなく、技術的にも無理な所はなかった。しかし、天候にはつくづく参った。夏だからニモ一応不事には下山して来たが、冬山での悪天が続いたら、エライですよ。冬の悪天の経験を持たない我々としては、精神的・技術的に、どこまで進んで行けるだろうか。確かに山のニカには、いい経馬舎となった。みじめな毎日の中でよくがんばった。それは評価できると思う。後半の縦走をとりやめたのは、問題ないと思う。我々は無意味な山行を目的としたのではないのだから。

吉田クンのニカは イー マイッタ、マイッタ

福島クンのニカは どうも歩いてしまって 悲しくとも存んどもないです。

行動記録

7/26 - 7/27 L. 白井, S.L. 吉田, 兵隊, 福島

7/26 松本 → 身延

7/27 身延 (7:00) → 田代発電所 (8:45) → 発電所 → 八丁峠 → 吊橋
→ 転付峠 (2:40) → ニ軒小ヤ (3:45)

駅前で簡単な食事をしてバスで田代へ、吊り橋を渡って 発電所迄グダグダ歩く。暑くて死ぬそう。八丁峠迄行くともうバテ気味。吊橋のヨコで一本取っていたら、降りて来た10人位のPの1人が目の前で、見事にひっくり返った。大W.V.。転付の登りは、フラフラしながら行く。峠の下り水場で、立教大が天バツテリて、仕方なくニ軒小ヤへ降る。今日の教訓 女の徳本、岸の転付

7/28 終日① 5:40 発、6:30 峠トク付近、7:30 根島、7:45 沢中、9:50 三角アチ、11:00 U字状のさうか 12:40 ~ 14:25 大滝滝、15:15 ニエアチ手前BP
一本取ったあとで、トクリ付近でトラックに拾われて根島へ 16分で行くと、赤石沢があった。水量はたいぶん少ない。もう1ヶ月の間も雨が降ってないのだから、ニれや、たう完全潮行もいけるな...とか詠言(次々日からのあつぱい)出来事を予想せにせず) 最初はゴ-ロ、巻く所は踏み跡もいっぺりして、どうもこうもなく進む。U字状の廊下の右岸に富士重工業のハーケンが落ちた。廊下の終ったと=るに=るは=る両岸が切れたぶちがあり、無理せず左岸へ巻く。しかし、ニれが大変で、トラバース出来ずにドンドン上へ行ってしまい、ウロウロする。ウレ下り直し、イヤらしい草付をトラバースして、アアガイレンセ:や。と降りた。1時肉半で30m位しか進むぞない。ウレ行くと、ニエぶちら(ワトコ)に出た。まあ早い。ニ=左とする。右岸を見ると、斜上するバンドがあり、適の落ち口に出られそう。ゴロンを作っていたら、単独のオッサンが来て、そのバンドをヒョイヒョイと登って行ってしまった。次に大沼山窓会の3人連が来て、どうするかを。と見ていたら、左岸のトコから一人空身で落ち口に渡り、(スコウムツガンイ) チロリアンをヤリ始めたので見物する。

7/27 6:10 B.P. 巻 6:30 右岸 アンガイレン 7:40 ワラン 10:10

門の大滝 10:50 ハンクの大滝下 12:30 岩小舎

出発しようとする時雨が降り出す。例のバントをアンガイレン(アライ)で
すぐそこには昨日の3人が天ハツラいた。ニろの方が天ハツラに降り。

ゴーロからナメ床が狭くよりに窄まってきて、やとワランを付ける。右岸前
方に岩峰がある。雨がたいぶ強い。小さな滝を直登しようとして福

島がスベって、シャワをもるに受けスアぬめ。水がつめたく息が
つまりそうになる。北沢出合を過ぎ、少し行くと、立派な30m位の

滝がかけ、大きなカマを打っている。門の大滝(1)。右岸のルンゼを
落ちる20m位の滝に、福島・吉田が挑戦するが、途中で動けなく

なる。下りがまたエライ。巻くのはやめて、左岸の落口へ登るべくアン
ガイレンして白井さんが登る。ザック釣り上げ。少しトラバースで

落口に立つ。そのトラバースで白井がスリップ、ヒヤッとする。どうか
で30mモロに落ちるとニろでいた。またすぐに滝が現れる。そ

の手前の岩小舎でひと休み。ガスがぬれで、戦意を失ってくる。奥
1。滝の落ちる右下に岩穴がありその上にあるピシに、急ぎし

テアアミをかけ乗ります。ニろからは、早く岩小舎でも見

ると、必死、水量が増り増して来る。やと適当な岩小舎を以て

たきぎで腹をかめかす。ラジオによると、16号の影響が(1)

7/30 丸 終日

朝目覚めるとまた降ってきた。寝直して 11:30(寝直して) 急ぎ

約する。水量は、十分増えてきた(1)。腹はかめて、(1)

毛)マテ、歌合戦をやる。

7/31 6:40発◎ 7:00 高巻き開始 9:05 終了 10:20 大沢溪沢出合◎

11:20 裏赤石沢出合, 12:00 百箇洞沢出合◎ 13:30 百箇洞天バ◎

朝起きたら晴間が見えたのに出発しようとするやと雲だらけ。すぐゴルジュ帯に
ブツかり 左岸を大きく巻く。右岸は、上部まで切り立って壁。2hutek
近々かかるとやと、ゴルジュ帯の上で降り立つ。そこからゴ-ロ。雨が
ちょっとつよい。単独のオッチャンが、快速そうな岩小倉にいた。更い所はなく
ドンドン進める。裏赤石沢の出合には、なつかしいケルンがあった。百箇洞
沢もなつかしいとなく快速に行ける。傾斜が落ちてパツと開けると、すぐ
縦走路に出る。百箇洞露岩地に天バル。ナイロンのツェルトなので、時折強
く打ってくる雨にすぐビショビショ。ラジオでは、東海地方は集中豪雨で、大雨雷
雨注意報がでて、九州では、山崩れで、被害が出てるらしい。

7/1 沈、終日雨。

夜半、風雨が強く、昨日いっしょうけんめい張ったのに、ツェルトがつぶされて
しまふ。中に氷がたまって、シュラフカバーのないう吉田君は、ほとんど寝てない。

もう3人共ねるのは、あきらめて、こまひりだてブスをして、ラジオを聞いて
夜明けを待つ。雨は強く、沈む。一日中せまいツェルトの中で、背中をか
がめているのは、とても苦痛です。ビショビショなので、福島はツェルト内でカ
バーを着る。今日はとておむれそうにない。夜になってもまた同じ姿勢。今夜
はホ-ルナイトで起きることにする。ラジオによると、雨は長続きしそうだ。
ソリンも残り少なく、明日は、大沢岳から大沢渡へ下山することにする。

ラジオが繁(み)で、O.B.C.の"Cut Japan"は女子課。次は全国歌謡音楽
エース合戦。それから色々聞いて、ヒットでヒットパクションと行こうの後、アネネの
ホ-ルナイトニッポンを聞く。そして長い夜が明け、早く動きたくて、朝食に
いそいそ。

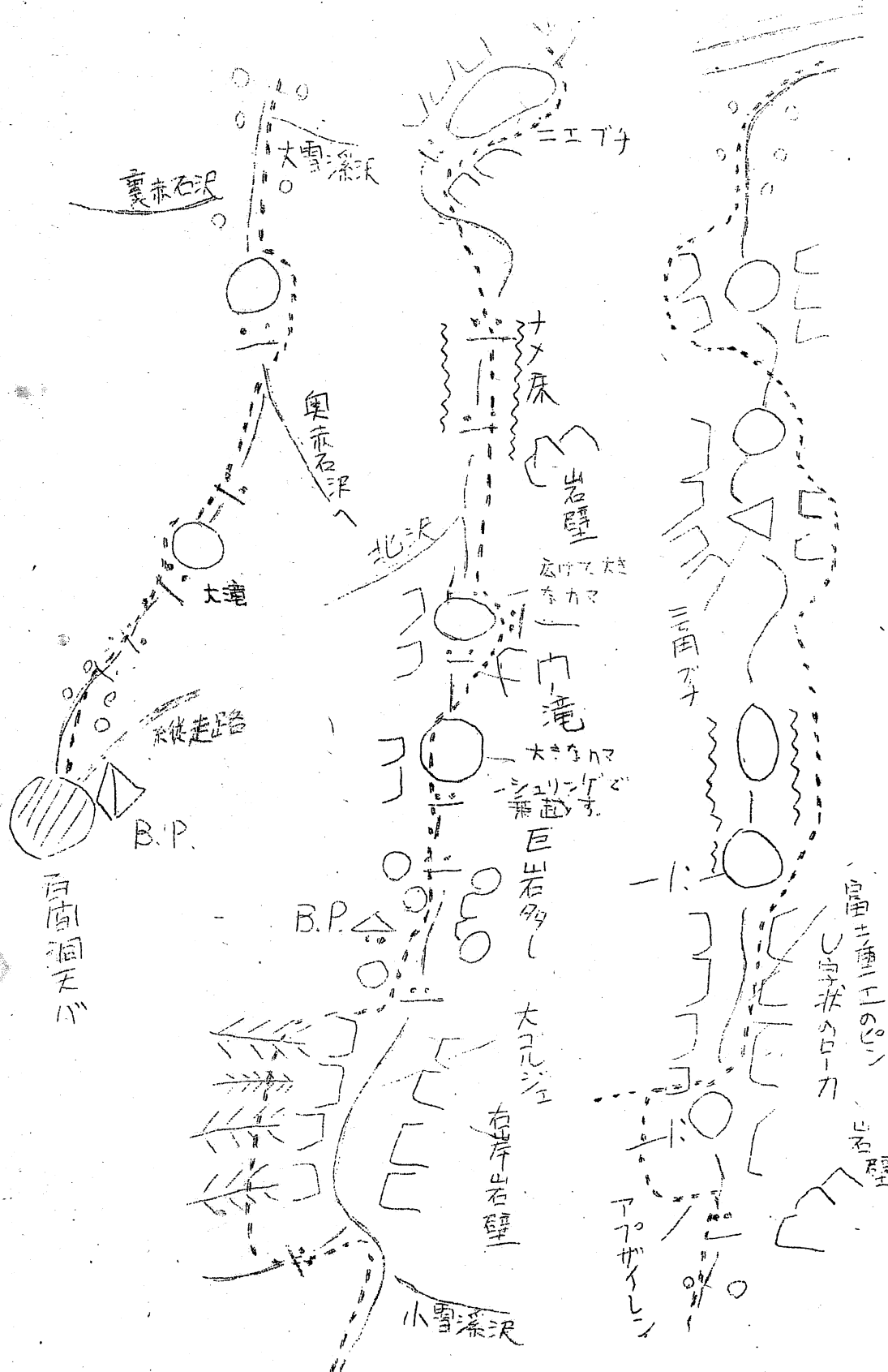
天バ発 5:30 ◎ 6:20 大沢岳 ◎ 大沢小ヤ 8:40 ◎

大沢渡 9:20 ◎ 大沢渡 2:30 ◎ 本谷口 14:30 ◎

明るくなるのを待って出発。雨はやんばるが、かえっている。大沢岳迄、1hutek

そこからhitekで大沢渡。北又渡へまたるヒルナ、また降り出す。本谷口の手前1ベッチのところで、トドメをこけるがごとく、強雨にたたかれまたまたパンツ迄ビショ。ヤクソで雨具をいで歩き続ける。本谷口に着いたらニッカーもシャツも1ぼる。バスの座席もビショ。又レヒする。やっと平岡に着いたと思っても、まだ来たのです。集中豪雨で列車が止まって、4時間程待たされる。もう慣れてしまって、悲しくともな人もないです。ハイ。

[落書ニ簡]



裏赤石沢

大雪沢

ニエ下

奥赤石沢

ナメ床

山岩壁

北沢

広野大橋
赤カマ

大滝

一内滝

徒徒走路

大野ハマ
シユリノサ
舞臺

B.P.

巨岩多し

B.P.

大コルシ

白濁洞天

右岸山岩壁

富田三種一工の心
し字井のローカ

石名
五王

アノガイレン

小雪沢

印刷 ボク
印刷所 ボクの印刷所
Printed in Japan